

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 7名回答、回答率 100%
保護者様： 21名回答、回答率 92%

職員の意見

○環境・体制整備

訓練室の見通しがよく、全体を見渡しやすい。また、室内をエリアに分けて、静と動の活動ができるように工夫している。手洗い場やトイレに行く際、一段、段差があるので、バリアフリー化は充分ではない。

○業務改善

定期的に社内研修を行い、参加できなかった職員を含めて情報共有はできている。特定の職員が参加することが多いため、交代で研修に参加する等教室内研修をより充実した内容にしていきたい。

○適切な支援の提供

児童の課題については、しっかり課題を分析して、必要な支援を考えている。活動も固定化しないように、児童たちの状態を把握しながらプログラムの構成を考えている。日々の支援の振り返りをその日のうちにできないときには、翌日のミーティングで共有をしている。また職員間の報連相を大切にしている。

○関係機関や保護者との連携

児童の通っている学校の担任ときめ細やかな連絡を行い、児童の支援に活用している。就学前に利用していた機関での様子等は保護者からの共有のみとなっている。地域の学童等と交流する機会はこれから検討したい。

○保護者への説明責任等

保護者とは細やかに情報共有し、必要な助言と支援を行うことで、保護者からの信頼をいただいている。地域の公園や店に出かけることはあるが、地域の方との交流までにはいたっていないが、昨年までは文化祭を行い、地域の方々に見て頂ける活動は行った。

○非常時等の対応

避難訓練の月1回の実施を徹底している。地震だけでなく、火災や洪水など、様々な災害に対応できるように、訓練をしている。虐待防止に関しては、定期的にセルフチェックシート等で振り返ってはいるが、今後はより定期的に研修を行い、事故防止につなげていきたい。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

高学年も多いため、運動するには充分とはいえない。
手洗い場やトイレの所に段差があるので、バリアフリー化ができていないと言えない。
実際の活動を見ることがないので判断が難しいとの声も上がった。

○適切な支援の提供

他事業所と比べても、児童と保護者のニーズや課題を分析し、適切な支援計画を作成されている。
活動プログラムも固定化されないよう工夫されている。
放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない児童と活動する機会は少ないとの意見が多かった。

○保護者への説明等

毎月のニュースレター等で、活動を教えてくれている。
定期的な保護者会が実施されているが、普通級の保護者は色々な学校から来ているため、十分な交流は取れていない。

○非常時等の対応

避難訓練は毎月1回実施しているが、実施の内容についての周知が十分ではない。
緊急時対応マニュアル・防犯マニュアル・感染症対応マニュアルの保護者への周知はしているものの、内容の理解までは十分とはいえない。また、実施しているものの、特別な報告はない。

○満足度

“子どもは通所を楽しみにしているか”、“事業所の支援に満足しているか”の項目はどちらも全て肯定的な意見だった。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

職員間の報連相の徹底、よりスキルアップするために教室内研修を実施し、質の高い療育の提供に繋げる。

○改善できた点・まだ残る課題

茶話会を実施し、保護者間の交流をする場の提供が出来た。地域交流がどのような点でしていけるのかを探っていきたい。



アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・児童や保護者の課題やニーズを反映した個別支援計画書を作成することができている。
- ・児童の特性に合わせ、様々なプログラムを取り入れ、児童たちが楽しみながら活動に参加することができている。
- ・学校の担任との情報共有をきめ細やかに行うことで、連続した支援の提供ができている。
- ・児童ひとり1人の強みや得意な事を最大限に伸ばして行けるよう、専門性の向上に努めている。
- ・保護者会で、茶話会などを実施し、保護者同士の交流を図れている。

○改善点

- ・地域の行事や他事業所との連携の強化
- ・緊急時対応マニュアル等の保護者への再周知
- ・虐待防止のための教室内研修
- ・避難訓練実施の保護者に向けた報告
- ・保護者会、茶話会の実施の呼びかけ方



中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・保護者の要望を把握し、実現できるよう教室内での研修を強化し、療育におけるスキルの向上に努める。
- ・児童たちの課題に応じ、より専門性の高い支援を提供できるように、運動や言語機能、コミュニケーション機能を高めるためのプログラムの開発に取り組む。
- ・保護者会については、活動報告だけでなく保護者同士の交流が図れるように、茶話会などの機会を設定し、保護者同士のつながりをサポートする。

○1年間で取り組む具体策

- ・教室内で実施している避難訓練等については、ニュースレターやブログ等への掲載だけでなく、保護者会での報告や活動記録の配布等、こまめに保護者への報告を行う。
- ・複数事業所を利用している児童については、保護者の了解を得て、他事業所や相談支援事業所と情報共有を図り、連続した支援ができるように取り組む。
- ・虐待防止のための教室内研修を四半期に一度実施する。

スマートキッズ